

風しん患者の発生状況について(平成31年第5報)

1 報道関係者の方へ

平成31年、県内では1月1日から2月19日までに風しん疑い症例35名について遺伝子検査を実施し、6名の患者を、また医療機関の検査により1名の患者を確認しています。今回、2月20日から26日までに疑い症例10名の遺伝子検査を実施し1名の患者を、また医療機関の検査により1名の患者を確認しましたので、平成31年の合計患者数は9名となりました。患者情報の詳細は、「2患者情報」のとおりです。

全国的に風しん患者の発生は継続しています。また、先天性風しん症候群の患者も平成31年に1名報告されています。今後の感染拡大防止のため、引き続き以下の点について、県民への注意喚起を宜しくお願い致します。

なお当面の間、県内で新たに風しん患者が報告された場合は、国立感染症研究所の風疹急増に関する緊急情報が更新された翌日を目安に、プレスリリースを行う予定です。

- 風しん及び麻疹に感染しないためには予防接種が重要です。風しん・麻疹の定期予防接種対象（第1期：1歳になってから2歳になるまで、第2期：小学校に入学する前の1年間）の方は、早めに予防接種（MRワクチン）を受けましょう。
- 妊婦が妊娠初期(約20週まで)に風しんに感染すると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」になり、目や耳、心臓等に障害を持つ可能性があります。妊婦は予防接種が受けられませんので、風しんに対する免疫が不十分、あるいは不明な妊娠初期の方はなるべく人混みを避け、風しん流行地への訪問予定のある方は延期をご検討ください。
- 妊娠を希望される方や妊婦の同居者(夫、子どもなど)で、ワクチン接種歴が1回以下の方は、かかりつけ医に相談し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- 30代から50代の男性は、風しんの免疫が不十分な世代と言われています。この世代の方は、抗体検査や予防接種について積極的にご検討ください。
- 発熱や発疹等から風しんが疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診して

ください。また受診の際はマスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。
特に県外や国外へ旅行をされた方は、必ず渡航先を医師へ伝えてください。

2 患者情報

【平成 31 年】

患者 No.	年齢	性別	居住地	予防接種歴	発熱日	発疹出現日	検査確認日	推定感染源	備考
1	60代	女性	石垣市	無	H30/ 11/29	H30/ 11/30	H31/ 1/3	県内	医療機関の検査で確認
2	40代	男性	沖縄市	不明	1/17	1/19	1/20	県内	
3	20代	女性	中部管内	不明	1/13	1/13	1/23	不明	
4	30代	男性	石垣市	無	1/23	1/23	1/29	県内	
5	20代	女性	中部管内	不明	無	2/11	2/13	県内	
6	40代	男性	糸満市	不明	2/10	2/12	2/14	不明	
7	40代	男性	南部管内	有 (1回)	2/15	2/16	2/17	不明	
8	50代	男性	千葉県	不明	2/22	2/21	2/23	県外	
9	50代	男性	豊見城市	不明	2/15	2/15	2/21	不明	医療機関の検査で確認

感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係者について、本人等が特定されないことがないように、格段のご配慮をお願いします。

なお、全国の風しん患者数は、平成 31 年第 1～7 週までに 528 名の患者が報告され、第 6 週までの累積報告数から 81 名増加しています。関東地方からの報告が最も多いですが、それ以外の地域からの報告もみられます。

3 予防接種関連情報

平成 31 年 2 月 19 日時点での県内卸業者における MR ワクチンの在庫は、約 3,900 本が確認されています。

県内の予防接種実施医療機関については、沖縄県医師会ホームページ及び地域保健課ホームページ「風しん関連情報（2018 年）」等をご参照ください。また、予防接種を希望される場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、MR ワクチンの接種が可能か確認の上、予約をし、受診をお願いします。

4 医療関係者の皆様へのお願い

引き続き院内での感染防止対策を徹底していただくとともに、風しんを疑った、もしくは診断した際には管轄保健所への報告と、患者に対しては接触者の確認や周囲への感染可能期間中のマスク着用、手洗いの実施及び行動自粛等の感染拡大防止の指導をお願い致します。

5 風しんについて

原因：風しんウイルス

潜伏期間：14～21日（平均16～18日）

周囲への感染可能期間：発疹が出る7日前から7日後まで

主な症状：潜伏期間の経過後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（ことに耳介後部、後頭部、頸部）が出現するが、発熱は風しん患者の約半数にみられる程度。また症状の現れない不顕性感染が、15～30%程度存在する。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊婦が妊娠初期に感染すると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」になる可能性がある。

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染症法：五類感染症

予防：予防接種が有効

6 参考

地域保健課ホームページ：風しん関連情報（2018年）

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/huusin2018.html>

国立感染症研究所ホームページ：風疹急増に関する緊急情報(2019年)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

厚生労働省ホームページ：風しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/